

(そのとき、群衆はヨハネに、)「わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。一中略— 民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。 -ルカ3章-

喜ぶ人になるために

待降節第3主日は「喜びの主日」と言われています。今日の三つの朗読は、いついかなる悲しい時、苦しい時も、それを喜びに変えてくださる主が、すぐ近くにおられることに気づいたあなたが、喜ぶ人になるよう招いておられるからです。それでパウロは勧めます。”いつも喜んでいなさい。どんなことでも思い煩うのはやめて、神に感謝を込めて祈りと願いを捧げなさい“と。いつも喜んでいられる生き方とは？

何でもお出来になる神が、私を造られた意味はただ一つ、私を最終的に「幸せ」にするためです。私がいけないと思う出来事に襲われた時も、それを回避できる神が、あえて回避なさらないで手を置いておられるなら、何か他に理由がおありだからです。——不幸は思い煩っても何もいいものを生みませんからこんな時は神のお考えを思い巡らしましょう。——考えられることは、神が私のために用意しておられる「幸せ」に私がたどり着く前に、私にこの現実を体験して欲しいと願われたからでしょう。神が私にそう願われたのなら、私は幸せを前にして前倒して”神様、この現実を感謝します。この現実のゆえにあなたを賛美します。”と喜んでこの現実を受け入れることが出来るのです！

神が最も喜ばれる信仰告白となるこの祈りが、私の口から出たなら、あらゆる人知を超える聖霊による神の平和が、イエスによってもたらされるのです。

ところで、私たちにこの平和をもたらす、「聖霊による清め」を妨げるものが「思い煩い」です。それは私たちの欲望を満たそうとする自我に他なりません。ですから私たちの清めには、この自我を焼き尽くす火が必要なのです。

“人が死んだら、わたしはその人の前に立つ。するとその人は今までいかにわたしから離れて生きていたかを瞬時に悟り、悲しみのうちに下って行く(清めの煉獄へ)。その清めは焼けるように痛い”と主はある啓示で語っておられます。「清め」は煉獄ではなく、生きているこの世でなされるべきものとして、主が私たちに「聖霊と火」で洗礼を授けてくださったのは、聖霊の人となって、一つになった世界を、主の再臨の日まで保って父なる神にお返しするためでした。洗礼は、神を知らなかったそれまでの生き方に死んで、神の新しい価値観で生まれ変わって生きること、ヨハネは、その洗礼を主が「聖霊と火」で授けると言われたのです。

